

医療や救急への啓発で救急車展示 看護師と記念写真、まるで遊園地

第25回ふれあい福祉のつどい(結城市ボランティア連絡協議会主催)が24日、結城市のアクロス駐車場を会場に開かれました。城西グループから看護師2人が救護班として参加し、公益財団法人「茨城国際親善厚生財団(IIFF)」から救急車を展示し、市民に対して医療活動や救命活動などへの啓発活動を行いました。

この集いは、福祉への理解を深めようと開かれているイベントで、健康体操やひょっこり踊り、手話の歌、琉球太鼓、よさこいソーラン、市民劇、和太鼓と多彩な催しを披露しました。

城西病院グループの救急車は、消防署のはしご車やレスキュー車、警察署のパトカーと一緒に展示されました。

救急車の人気は高く、家族連れで続々と救急車に乗り込んでいました。かつて実際に急病人やけが人を運んで活躍した救急車は、現在は、災害時の被災者の搬送に備えています。車内には、ガーゼなどの医療用品や酸素ボンベを接続するホース、マスク、心電図の記録用紙などが置いてあり、車内に入った子供たちは興味深げに眺めていました。

運転席に座った子供たちは、ハンドルを握って満足そうな表情を見せ、親たちは盛んにカメラのシャッターを切っていました。救急車のストレッチャーに乗り、寝心地を試したり、何度も何度も救

急車に乗り込む子供たちの姿も見られ、まるで遊園地のような様子でした。

平成27年10月26日



ストレッチャーで寝てみる子供たち



看護師と記念写真



運転席で記念写真



消防車やパトカーと一緒に展示された IIFF の救急車